

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アートチャイルドケアSEDスクール岡山豊成		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 15日		2024年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2024年 10月 15日		2024年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験のある職員が多いため、一人ひとりのお子さまの支援について様々な視点で考えることができる。	毎月、職員一人ひとりの良いところを見つけ伝え合う取り組みを行い、それぞれの経験を活かせる職場の環境づくりに努めている。	それぞれの強みを活かしたスクール内での研修を行い、さらにより良い支援に繋げていく。
2	職員間での情報共有の時間を大切にしているので、どの職員もスクールに通うお子さま一人ひとりのことをよく知っており、丁寧な関わりに繋がっている。	日々のカンファレンスでの情報共有に加えて、職員間でプログラム作成時に相談し合うなど、お子さま一人ひとりの支援について丁寧に話し合いが行われている。また、支援会議では、職員全員でお子さまの支援について意見を出し合い、丁寧なアセスメントを行うことで、よりよい支援の提供に繋げている。	カンファレンスや支援会議に、今以上にそれぞれの専門性を活かして支援の方向性について丁寧に話し合っていく。
3	グループ療育や共同プログラム、季節の行事などで他児との交流を深める機会を設けている。	グループ療育の利用がないお子さまにも、他児との係わりが深まるよう必要に応じて共同プログラムを行っている。また、季節の行事では、同じ遊びや空間を提供し、他児との交流の場となるようにしている。	来年度はグループ療育の枠を増やしている。季節の行事についても、内容について検討し、保護者さまも含めた交流の場となればと思っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今年度、保護者さま同士の交流の場をあまり設けることができていない。	今年度は新体制でスタートし、年間での計画に取り入れることが難しかったため。	今後、座談会や講習会などを計画し、保護者さま同士が交流を深める機会を増やしていく。
2	地域との交流の機会がもてていない。	現在地域と交流することができていないため、事業所のことを知ってもらう機会が少ないと感じる。園連携を行う際にも、系列園以外との密な連携が難しいと感じることがある。もっと事業所のことを知ってもらう機会を増やしていきたい。	今年度は園との連携の機会を多く持つことができた。事業所のことをより知っていただくことで、訪問先の園も安心して受け入れることができると感じる。今後、地域と繋がり事業所を知ってもらう機会をどう増やしていくか検討していく。
3	室内でのセッションのため、活動内容が限られてしまう。	通所の事業所のため、利用時間や安全管理も含めて戸外での活動には限界がある。	室内での活動にはなるが、しっかり身体を動かせるように運動遊びを充実させていく。また、自然物を使用したり、季節ごとに行事を取り入れたたりし、季節を感じられるようにしていく。